



KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS RESEARCH INSTITUTE
FOR JAPANESE TRADITIONAL MUSIC

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

令和4年度 後期

オンライン

伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

日本伝統音楽の講座に参加するのは初めてという方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

LIVE 配信

申込不要

視聴無料

日本伝統音楽研究センター
YouTubeチャンネルにて
ご覧ください。



<https://www.youtube.com/c/kcuarcjtm>

2022年

10月13日 木 1
西村文庫の意義と魅力
—日本伝統音楽研究の新出コレクション—
日本伝統音楽研究センター教授 竹内 有一
日本伝統音楽研究センター客員研究員 神津 武男

11月10日 木 2
京都市西京区が
舞台となっている謡曲
日本伝統音楽研究センター教授 藤田 隆則

11月24日 木 3
因幡の麒麟獅子舞は古代の犬舞《蘇芳菲》か!?
—犬から馬、獅子、そして麒麟になった舞—
日本伝統音楽研究センター准教授 田 鞆 智志

12月8日 木 4
新しい能の
プロデュースをめぐって
大学院音楽研究科日本音楽研究専攻2年 成瀬 はつみ

12月22日 木 5
能楽を通じた日本伝統音楽の
普及方法を考える
大学院音楽研究科日本音楽研究専攻2年 関本 彩子

2023年

1月12日 木 6
能の謡における作曲法とは何か
—「野宮」をめぐって—
大学院音楽研究科日本音楽研究専攻2年 荒野 愛子

1月26日 木 7
『箏曲集』から見る
明治期の箏曲教育と洋楽受容
大学院音楽研究科日本音楽研究専攻2年 藤田 神奈子

2月3日 金 8
民俗／民族音楽とポピュラー音楽
日本伝統音楽研究センター専任講師 齋藤 桂
(特別ゲスト) 大阪大学教授 伊東 信宏

3月1日 水 9
日本音楽と「律・呂」の再考
日本伝統音楽研究センター特別研究員
デュラン、ステファン・アイソル

3月9日 木 10
雅楽の鼓動
日本伝統音楽研究センター特別研究員 根本 千聡

裏面に各講座の詳細内容を掲載していますので、併せてご覧ください。

オンライン 伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

令和4年度 後期(10月~3月) 開講予定

LIVE配信

日本伝統音楽研究センターYouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/c/kcuarcjtm>

2022年 10月13日(木) 14:40~16:10

西村文庫の意義と魅力 — 日本伝統音楽研究の新出コレクション

日本伝統音楽研究センター教授 **竹内 有一**
日本伝統音楽研究センター客員研究員 **神津 武男**

「西村公一文庫」は、西村公一氏(大阪府)が収集した新出コレクションです。当センターでは資料の寄託をうけ、目録化を進めています。「関西圏ならではの」コレクションの特性や収集までの意外な道のりを紹介しながら、音楽研究における資料の収集・保存・公開の意義を問い直します。

2022年 11月10日(木) 14:40~16:10

京都市西京区が舞台となっている謡曲

日本伝統音楽研究センター教授 **藤田 隆則**

京都芸大が位置する京都市西京区が舞台となっている能の作品に、小塩、西行桜、大江山、松尾、嵐山などがあります。それぞれの作品の物語そして見どころ聞きどころを紹介しつつ、能の物語における現実の場所やその地名の大切さについて考えます。同時に、伝音センターに寄託されている西村文庫に所蔵される謡曲本も紹介する予定です。

2022年 11月24日(木) 14:40~16:10

因幡の麒麟獅子舞は古代の犬舞《蘇芳菲》か!?

— 犬から馬、獅子、そして麒麟になった舞

日本伝統音楽研究センター准教授 **田鞆 智志**

東大寺大仏開眼会でも舞われた《蘇芳菲(そほうひ)》は、親子の霊犬に扮した舞。平安朝にはいり、《蘇芳菲》は「競馬節会」行幸の被りものキャラクターに採用され、馬のような姿に変更されます。競馬節会は日吉社や新日吉社において「小五月会」として創始され、天台神道とともに地方に広まり、おそらく中世初頭頃には因幡の地に根付いたと考えられます。江戸期には御獅子とよばれ、近代にはいり麒麟と呼ばれるようになりました。はたして麒麟獅子は《蘇芳菲》の生き残りなのでしょうか?

2022年 12月8日(木) 14:40~16:10

新しい能のプロデュースをめぐる

大学院音楽研究科日本音楽研究専攻2年 **成瀬 はつみ**

能は古典曲ばかりでなく、「新作能」と呼ばれる新しく創られた作品が数多く存在しています。野上記念法政大学能楽研究所から出版された『能楽研究叢書 5』によると、2006年から2015年までに創られた新作能は60曲にも及んでいます。そのような新作能は、上演に至るまでのようなプロセスを歩んでいるのでしょうか。新作能における制作に焦点を当てます。

(修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション)

2022年 12月22日(木) 14:40~16:10

能楽を通じた日本伝統音楽の普及方法を考える

大学院音楽研究科日本音楽研究専攻2年 **関本 彩子**

近年において、日本の文化、伝統を海外の人々に紹介する機会は増えています。しかしながら、日本音楽は、数度の高い芸能としてのイメージがあり、その知識のある日本人は僅かです。このセミナーでは能楽に焦点を当て、地域での能楽講座、英語で学ぶ能楽講座、動画による教養講座などを紹介します。社会や地域コミュニティの変化により、身近に伝統的な音を感じる事が難しい状況になっていますが、この音風景をどのように復活させていくのか、現状を分析し可能性を探ります。

(修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション)

2023年 1月12日(木) 14:40~16:10

能の謡における作曲法とは何か — 「野宮」をめぐる

大学院音楽研究科日本音楽研究専攻2年 **荒野 愛子**

能の音楽は型の組み合わせによって構成され、その型は、地拍子と呼ばれる音楽理論に基づいています。この理論を理解することは、能を演奏したり鑑賞したりする上で大切なファクターとなります。本セミナーでは、能「野宮」の分析を通して、その謡の作曲法に焦点を当て、特徴的な旋律組織、リズム構造を見ていきます。また、現代における新しい能の作曲の可能性についても検討してみたいと思います。

(修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション)

2023年 1月26日(木) 14:40~16:10

『箏曲集』から見る明治期の箏曲教育と洋楽受容

大学院音楽研究科日本音楽研究専攻2年 **藤田 神奈子**

1879(明治12)年に音楽教育の調査研究や教員養成を目的に開設された音楽取調掛は、「俗曲改良」「和洋折衷音楽」などを旗印に、日本古来の音楽から新たな音楽の創出を進めようとした。そこで真っ先に対象になったのが箏曲です。日本で最初の五線譜による教育用邦楽譜『箏曲集』(文部省、1888年刊)を中心に取り上げ、明治期の箏曲とその教育は洋楽受容によりどう変化していったのか、実演も交えて解説します。

(修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション)

2023年 2月3日(金) 14:40~16:10

民俗／民族音楽とポピュラー音楽

日本伝統音楽研究センター専任講師 **齋藤 桂**
(特別ゲスト) 大阪大学教授 **伊東 信宏**

民俗／民族音楽は、しばしば両価的なものとして扱われます。たとえば、それが属する文化のアイデンティティのよりどころとして重視されることもあれば、未発達・野蛮なものとして軽んじられることもあります。この民俗／民族音楽がポピュラー音楽と結びついた時、どのような音楽が生まれ、またそれはどのように受容されるのでしょうか。日本と欧州の事例から考えたいと思います。

2023年 3月1日(水) 14:40~16:10

日本音楽と「律・呂」の再考

日本伝統音楽研究センター特別研究員 **デュラン、ステファン・アイソル**

日本音楽では「律・呂」という概念があり、日本音楽の音階の理論において「律・呂」より頻繁に参照される言葉はないでしょう。平安時代から、調を二つの種類「律」と「呂」に分け、それらが現行の雅楽や声明の中にも使われており、どの雅楽や声明の音楽理論書においても「律・呂」が登場します。本セミナーでは、日本音楽を聴きながら、その「律・呂」の概念のルーツについて、一緒に考えたいと思います。

2023年 3月9日(木) 14:40~16:10

雅楽の鼓動

日本伝統音楽研究センター特別研究員 **根本 千聡**

貴族たちによる優雅な「管絃の遊び」——それが、わたしたち現代人のもつ「雅楽」に対する一般的なイメージでしょうか。このイメージは間違いではありませんが、実は、雅楽の一端を照らしているに過ぎません。今回は、雅楽で使用される打楽器を手がかりに、時に力強く、時に陰鬱とした、雅楽という「伝承」の知られざる一面をご覧ください。